

琉球大学学術リポジトリ

農産物輸入に就いて (その1)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 嘉陽, 宗陰 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19559

工作技術の進歩に好結果をきたすのである。

鋸断の姿勢は右手で柄の端を握り切味にまかせて無理なく引き、殊に鋸身を前方に押し出すときは材を挽き切るのではなく単に鋸身を前方に送るのであるから静かに送ればよい。

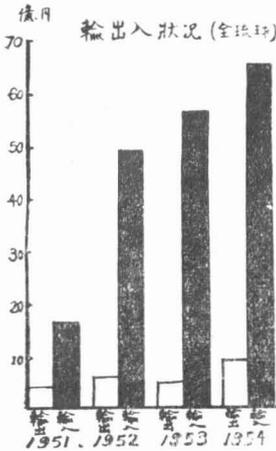
木材の切断に切味のよいのは、材面と鋸齒線とが約三〇度に傾斜した挽き込みの場合であつて垂直に近い持ち方は鋸の破損が多い。

正しい工具の取扱いは、工具を適所に使用して工具の機能を十分に發揮せしめることである。しばしば見受けられることであるが、両刃鋸で太い丸太を切つたりすることは両刃鋸の用途を誤れるもので、かくの如き不合理な使用は工具保存の上からも厳にこつしまねばならない。(続く) (岸 本 幸 安)

農産物輸入に就いて

(その一)

戦争前から神廻はよく輸入国(売出す物よりも買入れる物の量が遥かに多い)と云はれていますが大体何ういう様な物を多く買入れていくかをこちらで述べて見たいと思ひます。先づ最初に全体の輸入と輸出の關係から調べてみましょう。



第一表 輸出入状況 (全球球)
単位 (1,000,000円)

年次	1951	1952	1953	1954	1955
輸入高	1,657	4,915	5,639	6,522	2,129
輸出高	412	600	472	927	563
パーセント	25%	12%	8%	14%	26%

右の図は全球の戦後(一九五一年から一九五五年四月迄)の輸出入の状況を示したものです。この図に示されていますように輸出は毎年多くなつていきます。(五三年には少なくなつていますが、それから五五年は一月から四月迄の分ですからその一年の統計がまとまつたら五四年より多くなるのは確かです)然し輸出の増加よりも輸入の増加は非常に大きいものです。そしてこちらで直ぐ気がつくのは輸出額は輸入額よりも非常に少いという事です。即ち私達の地球は非常に多く物を外国から買つているが少しの物しか彼等に売つてないという事になつていく訳です。

さて次にこの輸出と輸入の關係を数字で表わしてみましよう。上の表に示されている様に地球は買入れるものの約四分の一(二五%)しか売出していません。一九五三年には輸入の十分の一しか輸出していません。それでは次に戦前は輸出は輸入のどれ位の割合を占めていたかに就いて一寸述べてみましょう。次の第一表は昭和十二年から十五年迄

の輸出入の關係を示したものです。その表に依りますと昭和十四年及び十五年には輸入の九十パーセント以上も輸出していた訳です。言葉を変えていいますと買った量は殆んど全部売つた量で補つていた事になる訳です。第一表で示した様に戦後は売るものが非常に少くなり反対に買う物が非常に多くなつていきます。

第二表 輸出入状況 (昭和12-15年)
単位当時の日本円 (1,000円)

	昭和12年	13年	14年	15年
輸入高	28,407	29,322	34,602	40,036
輸出高	21,453	24,665	31,950	37,650
パーセント	75%	84%	92%	94%

きこわれ砂糖が全輸出額に占める割合は僅か五八パーセント(一九五四年)に下つていきます。

戦後は戦前の米と材料の主なる輸入品の外に多量の復興建築資材を輸入せねばならずそれにかたて加わへて農耕地が少なくなり又海外からの帰還者と急激に増えた人口のために多量の食糧を輸入せねばならなくなつて一九五四年に於いては六十五億円の物を輸入しているのです。

さてどの様な食料品がどの程度毎年輸入されているかに就いては次の号に述べてみたいと思ひます。(続く)

(嘉 陽 宗 隆)



何故この様な片断的な貿易状態になつて了つたでしょうか? 御承知の通り戦前地球では毎年多量の異糖及びさらめ(分密糖)がつくられ、そしてそれ等を輸出していたのです。昭和十五年の統計に依りますと全輸出額の九八パーセントはこれらの砂糖に依つて占められていたのです。それが戦後は製糖工場が叩